

406) シャム猫

佐久で拾ってきたシャム猫はなかなか気が荒くて、よく引っ搔かれるのでありますが、小生にはことの他よく慣れて、小生の肩に乗ったり、脚をよじ上ったり、まあよくジャレているのであります。ある日私がパジャマ姿でいると、何を思ったのか突然飛びついてきたのであります。ところが我輩のパジャマは相当のネンキもので、ゴムは緩いし、生地はヨレヨレ、飛びついた途端にパジャマのズボンがズルッとずり落ちて、そんなことをまったく予期していなかった猫殿は、脱げ落ちたパジャマと共に床に転げ落ちたのであります。子猫はバツの悪そうな顔をして我輩のほうを見つめているのでありますが、我輩の方はといえば、パンツ一丁の見るも哀れな姿になっていたのであります。